授業科目	北九州の技と文化					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	林　　裕二						
授業概要	北九州には、長年、ものづくりに携わり、優れた技術・技能をもった「匠」「達人」がいて、「企業」があります。タイムパーフォーマンス、利便性が追求される現代では、地域で育まれてきた技や伝統文化に出会い、接する機会も少なくなってきました。本講では、達人たちの生き方や仕事に対する向き合い方、企業の歴史、今後の展開や方向性を学び、これからの人生への礎としてほしいと思います。この授業では、北九州の文化圏でその技や文化を継承し、発展させてこられた外部講師の方々の講義のほか、体験を通して、地域に伝承される技やその背景の文化の一端を知り、考えます。ディスカッション、レポート、発表（口頭、プレゼンテーション）、レポート外の提出物、その他の活動で理解を深化させて、提案ができるようになる活動をします。PPT（オンライン提出）をベースにして、ポスターを作成します。それを教室に貼り、ポスターセッションを行います。ポスターセッションとは、ポスター作成者が聞いてくれる人たちに発表をすることです。なお、PPT は全員がオンラインで確認します。それを見て、どの人たちのポスターセッションを聞こうかと決めておくことになります。 ＊外部講師（全 5 回）と学生の活動報告（1 回）の内容・順番が変更になることもあります。外部講師については変更になることもあります。						
授業形態	講義			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 地域・社会で活躍することの意義を習得することができる 2. 伝承されてきた技と背景的な歴史と展開を理解できる 3. 講義内容を理解し、まとめ、提案を含むプレゼンテーションをすることができる。 講義内容の意味を理解し、適切な表現で課題をまとめることができる。根拠（エビデンス）を示して、自らの主張を述べ、提案ができる。
理想的レベル	講義内容の意味を正確に理解し、適切な表現で課題を分かりやすくまとめることができる。また客観的な根拠（エビデンス）に基づいて論理的に主張を述べ、独創的な提案ができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	32%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%	
レポート外の提出物	20%	
その他	28%	

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU10603J WE10603J NT10603J EN10603J TO10603J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
講義の概要について理解し、復習する。	4

授業計画	
第１回	テーマ：オリエンテーション 本講義の目的と授業の進め方、達成の目安、評価方法等について　解説する。（林）
第２回	テーマ：地域で育まれてきた文化(1) 小倉織とその文化（外部講師、林）
第３回	テーマ：環境モデル都市と文化　（外部講師、林）
第４回	テーマ：地域の伝統と食文化 （外部講師、林）
第５回	テーマ：1.地域貢献に活躍する学生の活動報告 ２．評価方法等について　　（林）
第６回	テーマ：地図づくりの歴史とこれから（外部講師、林）　＊ポスターセッション用紙配布
第７回	テーマ：地域で育まれてきた文化（2） 地域の食文化－「ぬかだき」を知る（外部講師、林）
第８回	テーマ：1.プレゼンテーション（ポスターセッション）　（林）
テキスト	1.授業前課題が出されます。30 分程度は学習が必要な課題です。2.プリント等で配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	大学図書館の朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱビジュアル（大学図書館、キャンパス内の情報演習室等から閲覧可能です） 新聞・雑誌を利用します。図書館には何種類もあります。 知へのステップ 第５版 ―大学生からのスタディ・スキルズ 学習技術研究会（著)出版社 ： くろしお出版；第５版（2019） ポスターセッション関連： https://about.yahoo.co.jp/info/blog/20190410/postersession.html https://vipcamp.org/2016/poster.html https://www.toyama-c.ac.jp/news/000735.html
課題に対するフィードバックの方法	PPT については、個別にフィードバックをすることもあります。最終的な発表となるポスターセッションについては、４．その他　（28）：　３を聞いた後のレポート（Ａ４　二枚）が学生相互のフィードバックを兼ねることにもなります。
学生へのメッセー	初回の授業（オリエンテーション）で講義全体の概要を説明する。関連する文献を読み、予備知識を得ておくと、授業の内容を深めることができる。初年次ゼミナーⅠ、Ⅱ等が理解できている。

ジ・コメント	下記中の「４．その他　(28)：３を聞いた後のレポート」は感想文ではありません。自分の主張を支える信頼できる根拠（エビデンス）が必要です。 日頃から新聞、雑誌等を読み、ニュースを見て、世の中でどのようなことがおきているかを知ることが大切です。図書館を活用しましょう。 社会にはいろいろなことがあることを知るのは、紙の新聞です。いろいろなことが社会にはあることが新聞を広げることで、わかります。　「４．その他」では印刷物の参考文献を少なくとも一つは使います。 記 提出物：1.　レポート（32）毎回の最後に集める出席票かコメント用紙。８回。＊出席票が出席確認だけの場合は評価対象外。　２．レポート外の提出物（20）：　PPT（オンライン提出、3.　発表（口頭、プレゼンテーション）(20)：ポスターセッション、　４．その他　(28)：　３を聞いた後のレポート（Ａ４　二枚）書式は指定。　合計　11 回。